

産業・建設・水道分科会の中間報告

22. 2.19 伊藤 分科会代表

1. テーマ

- 〔1〕「海の寺泊」人と自然と歴史が融合した活力あるまちづくり
- 〔2〕農業、漁業、観光の連携（グリーン・ツーリズム）
- 〔3〕特産品の開発と地域ブランドづくり

2. 経過

平成21年9月10日(第1回)

分科会では、市長に提案するテーマを「海の寺泊」ブランドの確立...[人と自然と歴史が融合した活力あるまちづくり]をメインテーマに基づき、協議した結果、4項目に絞り込む。

具体的テーマとして提案された内容は、次のとおり

「海の寺泊」人と自然と歴史が融合した活力あるまちづくり
農業、漁業、観光の連携（グリーン・ツーリズム）

地域特産物のPR

環境と資源を生かした、住民協働による「銘産品の開発・特産品づくり」による地域産業おこしと商品開発

平成21年10月9日(第2回)

上記4項目について、各委員が、資料等を作成し、協議することとした。

経過と結果については次のとおり

「海の寺泊」人と自然と歴史が融合した活力あるまちづくり

構想は、今後、具体的に時間をかけ、関係者の理解を得ながら分科会のテーマとして、検討事項としたい。

農業、漁業、観光の連携（グリーン・ツーリズム）

グリーン・ツーリズムは、人を呼び込むためにも大事なことである。また、観光の町としても大事なことである。今後、是非とも分科会のテーマとして、検討事項としたい。

地域特産物のPR

環境と資源を生かした、住民協働による「銘産品の開発・特産品づくり」による地域産業おこしと商品開発

項目 . . . については、「地域特産ブランドづくりと地場銘産品の開発促進」として、一つの提案にまとめ、市長への提案に向けて進めたい。

平成21年12月17日(第3回)

10月23日 第3回地域委員会の中間報告に基づき、審議する。
項目 . については、名称を一部変更し「**特産品の開発と地域ブランドづくり**」(案)を市長への提案に向けて進める中、これを主に協議することとした。

経緯・結果は次のとおり。

- ・我々の委員会の中では、このことで柱立てはできたものと思うが、行政に反映することになると、こういうことでは反映しきれない。
- ・本当の狙いは「海の寺泊ブランド」と「農林水産業」が一体となることが地域の発展につながる。
- ・いずれも抽象的なので、具体的なものにしたい。
- ・今回の要望は、実現しそうなものに一番近い。しかし専門的な方向付けになると、仮称 地域ブランドづくり寺泊協議会設置についても、先ず関係の方々に話しかけ、みんなが協力できるか話し合うのも方法。
- ・地域委員会の分科会として、協議会を立ち上げたい。関係団体と意見交換のチャンスを1回つくったらいいいのではないかと。
- ・地域委員会で今、市へ提案の検討をしている、その中間報告をまとめる上で、関係者の人達と議論していただきたい。
特産品の開発等で関わっている各団体から参加していただき、意見交換、協議することに決定。

平成22年2月5日(第4回)

特産品の開発と地域ブランドづくり意見交換の開催

〔参加団体〕9団体

菜の花・油プロジェクト高内・寺泊地域認定農業者連絡協議会
寺泊観光協会(欠席)・寺泊緑提灯会・寺泊町商工会
JA越後さんとう組合・寺泊漁業共同組合・区長連合会
農村地域生活アドバイザー

経緯・結果は次のとおり

- ・地域委員会からこのような課題を投げかけてもらって、寺泊地域をあげて取り組んでいくことは、地域の活性化やコミュニティを考えていく上で、良い方向に向かうのではないかとと思う。
- ・海岸部と農村部でお互い良い交流ができるのではないかと感じている。
- ・場所の話で、魚市場通り前の市の車庫を利用できないかという

話も分科会の中であった。市の所有ということや、施設の耐久、営業許可の問題などあるが、視野に入れてもよいと思う。

- ・寺泊は県内有数の観光地だが、実際にはアメ横周辺だけの日帰り観光地。
- ・緑提灯会を立ち上げたのは、本当の寺泊を知ってもらい、魚だけでなく野菜や果物もあるということをお客さんに発信したい。
- ・本当の寺泊を知ってもらうためには、美味しい魚、野菜、果物を提供できるように、力をつけていきたい。
- ・滞在型の観光客を呼ぶためには、体験することが一番なので、そういう体験ができる施設が必要である。
- ・いろいろなものを作っているが、商売になると、自信がないという人たちが農村部にも相当埋もれていると思う。
- ・まずは協議会の中で商品、技術などのお互いの供給を行っていったらどうか。
- ・支援が無くてもできることは、人材を集めて重点品目を決めていくことや、寺泊全体としてどのようなものがあるかを把握すること。
- ・協議会を先に立ち上げて、実利をあげてから市に提案していかなければいけない。
- ・地域委員会が事業者になるということではできないが、活動を見ながら全体の構想を立ち上げていきたい。
- ・魚の市場通り前の車庫などを一時的に借りるなどして、販売と開発と並行して行うのが良いのではないか。その中で、民間努力で施設を借りたりすることができれば、そこに実績ができて将来的につながっていったらよいと思う。
- ・今ある施設を利用できるのであれば、皆さんが協力して提案していけば可能なのではないか。
- ・協議会のメンバーには、団体に属さない人たちも入れていく必要がある。
- ・構成団体、役割をどうするのかということは、地域委員会の中でもう少し詰めなければいけない。
- ・今月、区長連合会の役員会があるので、今日の話を経験して、区長連合会としてどういう働きをしていくのか話をしたい。
- ・いきなり協議会という話になっても戸惑うと思うので、まずは地域委員会がどういう活動を行っているかということ、区長連会の方などからPRをしてもらいたい。

- ・計画があれば、地域から上がったものを地域委員会がまとめて市に提案して、その活動を応援したいと思う。
分科会としては各団体の意見交換を参考に、特産品、ブランド品づくりを掘り起こすため、協議を進めていく。
今後の協議の中で、ブランド品づくり等の協議会創設も考えられる。そのためには、各団体及び有識者の協議が必要。

3. 今後の取り組み

- ・現在「特産品の開発と地域ブランドづくり」(案)を主に、引き続き審議するが、第2回分科会で、具体的テーマとして提案されている
「海の寺泊」人と自然と歴史が融合した活力あるまちづくり
農業、漁業、観光の連携(グリーン・ツーリズム)

についての内容は、長岡市内から寺泊の幹線道路の整備を含め、海水浴場、魚の市場通り、漁業、釣り場、キャンプ場、広大な砂浜等を整備する「海の寺泊」人と自然と歴史が融合した活力あるまちづくりを検討しては、という意見が提案されている。

それについては、構想は今後、具体的に時間をかけ、関係者の理解を得ながら分科会のテーマとして、検討事項とした。

- ・構想のエリアが広いため、まずはエリアをせばめて関係者と話し合うなど協議をし、それをつなぎあわせて寺泊独自のものを作り上げるため協議する。

については、分科会のテーマとして、検討事項とする。